

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600157		
法人名	社会福祉法人 昂希会		
事業所名	グループホーム ひより		
所在地	栃木県日光市芹沼1739-41		
自己評価作成日	平成29年10月13日	評価結果市町村受理日	平成30年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop20
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成29年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方のご理解とご支援を頂けるようになってきた。地域・自治会の行事、運動会の招待はもちろんの事、祭りの最中に自治会長より、地域の方にグループホームひよりの紹介をいただき、競技を設けてもらった。また、施設付近の道路・街灯整備にも働きかけてもらっている。施設内においては、毎月の行事外出・外食・運営母体の行事参加や食材の買い出しにスーパーや直売所・道の駅などに出掛けている。この夏はリビング掃出し窓にデッキを設置し、テーブルセットを置いてお茶したり週末にはSL大樹を近くで観ることができる。手を振り、煙をはき汽笛を鳴らしながら走るSLに涙を浮かべる方もいらっしゃる。開所当初より、全体的に認知の進行はしてきているが、それでも楽しい事・嬉しい事を数多く感じてもらえるよう、スタッフ一同、努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は複数の大型ショッピングセンターの近くにあり、日中は賑やかである。近くに東武鉄道の線路があり、蒸気機関車の走る姿を見ることが出来る。①自治会長が利用者を心配して、事業所前の道に防犯灯の設置を行政に要請したり、地域や各学校からの行事に招待されたりと地域との関係性は良好である。②カンファレンスや会議等で上がった提案が、管理者と職員間で共有されてすぐに実行するなど、職員間の関係もよく風通しの良い事業所である。③週に2~3回、食材の買い出しに利用者と一緒に道の駅やショッピングモールへ出かけている。また、外食を兼ねて桜や紅葉を見に出かけている。④食事は、旬の野菜を使った季節感のある手作りのものが提供されている。食事の準備から後片づけまで、利用者と一緒にすることで楽しく食事ができるようにしている。⑤毎日の掃除を職員と利用者が一緒に行っているため、事業所内が清潔感のある環境になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で作成した理念を、職員が毎日認識できる位置に掲げ、意識を持って実践に繋げている。	理念を玄関と事務室に掲示して職員が意識できるようにしている。また職員へは入職時に理念を説明している。	理念を具体的な支援に落とし込み説明するなどの工夫を期待します。今後は家族や地域の方へ事業所の理念が浸透する取組も期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事、児童館の運動会、地区福祉協議会の行事に招待され、交流を深めることが出来ている。地域中学校より、校外学習の依頼を受けた。	小学校や地域の運動会などに招待され、交流が図られている。地区の行事に職員と利用者も参加している。中学校の校外学習では、生徒と日中を過ごし一緒に食事をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、自治会長・民生委員に出席頂いているので、その都度、報告と支援をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、自治会長、民生委員、家族代表の出席を頂き、暮らしぶりや行事内容、ヒヤリ・事故報告をし、話し合いやご意見を書面化し、職員間で共有しながら、サービス向上に活かしている。	会議では、市職員、自治会長、民生委員、家族代表が参加し、事業所の定期報告と参加者の意見交換が行われている。地域の高齢者見守り隊の発足にあたり、意見交換が行われる場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	EメールやFAXにて情報を確認。運営推進会議にも出席して頂き、必要の応じて相談したりしている。	運営推進会議に行政の担当者が出席している。日常的な連絡のやり取りは法人本部を通して行政と連絡している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加などで、周知はされている。外に出ようとする方の原因や対策などを話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	内部研修をして身体拘束をしないケアを行っている。事業所内に閉じ込めることはしないように、一緒に外出・買い物をしたり日ごろから意識をしたケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会参加やカンファレンスにて、虐待が見過ごされることがないように、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加に努めたり、必要に応じて支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族様の不安や質問に答えながら、納得の上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族様代表の意見を頂いたり、来所時に意見や要望を頂けるような関係性に努めている。家族会開催では、意見などを頂けた。	家族会が協力して夏にバーベキューを開催し、職員と意見交換をしている。家族の面会時に職員から声掛けし、話しやすい雰囲気を作っている。外出や入浴に関する本人の要望にも、できる限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やカンファレンス、個別面談を行い、意見などを聞く機会を設けている。	管理者は日頃から職員の意見を聞き、出来ることは改善するようにしている。職員の家庭の事情に配慮し、勤務体制の変更も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務可能状況や要望を聞き入れながら、勤務表作成に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった、内部・外部研修参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者が募る勉強会の参加を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み、契約時に本人・家族様より困っていること、不安なこと、要望を聞き入れながら安心して過ごしてもらえるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には、申し込み・契約時にサービス内容を説明しながら、不安や要望を聞き入れ関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の必要に応じた支援を見極めながら、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の買い物、食事の支度、掃除・洗濯を一緒に行うことで暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築けるように、来訪時や電話連絡にて状況を伝え、本人・家族様の訴えや問題が生じた時には一緒に考えられるように築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所された時は、次回も訪問して下さるように対応している。馴染みの方と出会えるような場所に出向いている。家族様の協力もあり、馴染みの美容室や温泉に出掛けている方もいる。	馴染みの方が来た時には、リビングやお部屋で話ができるように対応している。複数の利用者と共に、以前によく食べていた、お饅頭屋に行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席の配置や利用者同士が関わりあえる、スペースを確保し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要な相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握に努め、困難な場合には行動や仕草、傾聴しながら職員間で話し合い検討している。	利用者本人から直接の要望や、家族からの情報により意向を把握している。更に、本人の行動や仕草からも意向を汲み取るようにして、本人本位に生活が送れるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族様から生活歴、環境、暮らし方などを伺いながらアセスメントシートを作成し、新たな情報があれば追加し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態、有する力を見極めながら、その人に出来る事を一緒に見つけられるように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様の要望・意見を取り入れながら、カンファレンスや必要に応じた関係者を含めた話し合いをしながら、介護計画を作成している。	本人、家族の要望を第一にして介護計画を作成している。毎月のカンファレンス時に、日常の行動から考えられるニーズや課題を職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の際は行動だけでなく、言葉や仕草なども記録している。記録以外にも、申し送りなどで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画外のドライブや散歩、私物の買い物、食事や喫茶に出掛けたり、野菜の収穫や制作など一緒に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に招待され、競技参加やプログラムに組み入れてもらい、楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に変更しており、月1回の往診・定期検査を受けて健康管理。かかりつけ医に受診の際は適切な医療が受けられる様に支援している。	かかりつけ医でも可能であるが、現在は家族の負担軽減のため協力医の往診となっている。協力医は事業所から車で10分位のところにあり、急変時にはすぐに対応してくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコール対応にもなっており、情報や気づきを伝え、相談している。また、協力医とも相談でき、受診が適切に受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のお見舞いはもちろんの事、病院関係者との情報交換にも努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様と話し合い、ホームで出来る事などを説明し、支援に努めた。	医療連携加算はなく、重度者の受け入れ体制は未整備である。利用開始時に事業所でできること・できないことの支援を説明している。医療的ケアが必要な方は、他の施設へ紹介するなどの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は書面化しており、随時確認は出来る。救命講習も受講済みであるが、定期訓練は実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導による昼夜問わずの訓練を年2回実施、自治会と協力マニュアルも作成しており、地域の方の訓練参加もお願いした。	火災時のマニュアルや、緊急連絡網の作成がされている。地域の方と避難訓練を一緒に行うことで、自治会との協力体制もできている。	今後は水害対策も考え、市が定めたハザードマップ等を活用するなどして、水害時を想定した対策マニュアルを作成することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼び方、言葉使いは個人を尊重した対応に努めており、職員間では名前ではなく部屋番号を使っている。	トイレの誘導の際には、利用者の耳元で声掛けして支援している。カンファレンスは利用者のいるリビングで行っているが、その時は個人名ではなく部屋番号に置き換えて話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で意思確認をしたり、表情や行動を観察しながら、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースと過ごし方の把握に努め、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣類の入れ替えは、家族様をお願いしている。更衣・整容が困難な方には必要に応じて支援している。理美容は出張サービスを利用したり、家族様と馴染みの店に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備では、野菜刻みや味付けをする。又、提供する際には盛り付けをお願いしたり、食後は食器拭きをお願いする。	出来る限り直売所で購入した旬のものを使用し、手作りで提供している。敷地内に畑があり、そこで収穫した野菜も提供している。食事の提供から後片づけまで、できる利用者には手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増減を考慮したり、水分は一日の水分量を記録している。嗜好や摂取量の把握にも、努めている。希望にて、毎日納豆を食べる方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。洗浄剤を使用している方等、個々に必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄シートを活用しながら、誘導を促したり、プライバシーに配慮しながら、トイレでの排泄を支援している。	支援が必要な利用者に対しては、耳元で声掛けして誘導している。利用者がなるべく自立できるように、排泄表を活用して排泄パターンを把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の乳製品提供や体操を行っている。排便チェック表や排便状態を確認しながら、必要に応じた服薬調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回の入浴を午前・午後と希望を考慮しながら、入浴してもらっている。冬場には、入浴剤を使用して楽しんでもらう。風呂上りには、イオン水を提供している。	週3回は入浴できるように支援している。本人の希望により午前から午後へ変更することもできる。長く入浴したい利用者には、体調に配慮して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの起床・就寝時間は異なっている。休息などは、状況に応じて支援している。空調管理も、こまめに設定調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診療情報・服薬情報で理解をする。服薬においてはダブルチェックにて行う。症状の変化は看護や協力医とも相談しながら、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、物作りの支援をしたり、花の水やりや掃除や食事の準備等、個々に合わせた役割に満足してもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、行事外出、買い物、外食など戸外に出掛ける機会を設けている。また、家族様との外出支援や地域の行事参加により、昔の知人との交流もある。	事業所の周りを職員と一緒に散歩している。週に何回かショッピングモールや、野菜の直売所、道の駅など食材の買い出しに利用者と一緒に出掛けている。家族と温泉へ出かけたり、自宅へ帰宅したりと積極的に外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することは困難ではあるが、お金をお預かりしていることを伝え、一緒に買い物へ行っ好み服や日用品・嗜好品を選ぶように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方の支援や、希望訴え時には取次ぎを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるような空間作りと、行事外出などの写真を掲示している。朝の掃除と夜勤者も掃除をし、環境整備をしながら不快さを感じさせないように努めている。	掃除が行き届いており、共用空間はきれいに保たれている。リビングは施設感がなく、家庭的な環境である。行事や外出時の写真を掲示しているので、来訪者は事業所の活動の様子を見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、自席以外に雑談や趣味を楽しんでもらうスペースを確保している。又、デッキにはテーブル・椅子を置いて外を眺められ、週末にはSL鑑賞が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている家具、装飾品などを持ち込んでいる。居心地よく過ごしてもらえるように、本人・家族様と相談をしながら、工夫をしている。	職員が手伝いながら、利用者が自分で部屋を掃除している。衣類は季節ごとに家族が入れ替え、必要最小限にしている。また趣味の作品を飾り、自分の好きなものに囲まれた部屋にしている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの高さ、洗面周りは個々に合わせ環境を整えている。また、掃除、洗濯、料理など個々のできることを見つけながら、お手伝いをお願いしている。		